

生涯研修プログラム クリニカルカンファレンス 8

—Subspecialty を越えて (女性ヘルスケア・生殖) —

1. PCOS の生涯管理

熊本大学 大 場 隆

多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) は不妊症の主要な原因のひとつであると同時に、心血管疾患、糖尿病や子宮内膜癌の危険因子として女性の一生にわたり健康に影響を及ぼす。PCOS における内分泌異常の主軸はインスリン抵抗性と高アンドロゲン状態である。インスリン抵抗性を起点として PCOS の発症を一元的に説明することができるが、本邦においては明らかなインスリン抵抗性を呈するのは PCOS 女性の一部であり、インスリン抵抗性は PCOS 発症に関わる重要な因子のひとつと捉えるべきである。

PCOS は、性成熟期以前の女性における肥満、思春期早発と深い関連がある。思春期、青年期女性の PCOS、いわゆる Adolescent PCOS における問題点として、無排卵周期に伴う不正性器出血、男性化、色素沈着 (黒色表皮腫) といった美容上の

問題、そして早発思春期による低身長が挙げられる。

挙児希望のない PCOS に対する管理の原則は生活習慣改善と月経周期の確立である。肥満を伴う PCOS 女性に対しては体重減少を第 1 選択とする。第一度無月経で症状が月経異常に限られる場合は、ホルムストロム療法により少なくとも 3 か月ごとに消退出血を起こし子宮内膜の異常増殖を予防する。そのうえで十分な効果が得られない場合、欧米ではインスリン抵抗性改善薬や抗アンドロゲン薬が選択されている。不正性器出血を訴える場合には、たとえ若年女性であっても子宮内膜癌の除外診断が必要である。産婦人科医は生殖内分泌の領域だけでなく周産期医学や婦人科腫瘍学、更年期医学といったさまざまな領域から PCOS 女性に関わっていくことが求められる。

2. 生殖医学と性感染症

群馬大学 岸 裕 司

性感染症 (STI) は性行為により感染するすべての感染症の総称である。現代において、性行為の形態は多様化しているが、本来的には生殖行為であり、STI と生殖医学との間にも浅からぬ関係がある。生殖医学、特に不妊治療の分野では、STI が妊孕性に与える影響が大きな問題となる。STI は無症候性でありながら、感染性を保っているものが多く、また、妊娠の際には母子感染が生じる可能性もある。感染蔓延を予防するための啓蒙活動が重要である事は論を待たないが、不妊患者においては、早期発見と治療が、より重要となる。

性感染症の病原体は多岐に渡っており、リストされるものは 30 種を数える。このうち、特定の STI については、感染症法に基づく予防指針により、毎年その動向調査が行われている。我が国の調査において、最大数を記録している STI はクラミジア・トラコマティス (CT) である。その総数

は 2002 年をピークに減少傾向にはあるものの、依然、我が国最頻の STI と考えられ、女性に多く認められ、20 歳代という若年にその発症のピークを持つ。

女性における CT 感染は、初発部位である子宮頸管炎から上行性に、子宮内、卵管へと感染を波及させ、ついには腹腔内に至る。この過程で炎症による卵管内膜の破壊、卵管采の狭窄・閉鎖、腹腔内癒着による卵子のピックアップ障害等を引き起こすことにより、妊孕性を障害する。また、異所性妊娠の原因ともなりうる。卵管性不妊は、ART の適応となることが多いが、卵管の再疎通を図る機能再建治療も行われている。一方、子宮内膜症とは異なり、卵巣機能や腹腔内環境に与える影響が話題となることは少ない。

これら、STI が生殖に与える影響について、発表を行う。